



2025年3月30日発行

こあじろの森くらぶ通信

No.45

第46回交流会「鳥いっぱい谷と森2025」

2025年2月2日（日）

講師：別府史朗氏

参加者：講師含め8名（早朝谷歩きから4名+のんびり漁港から4名）

前日の天気予報では小雨で午後には回復の様相、昨年の探鳥会は小雨で実施し、鳥たちは雨天でも活発に活動していること、また3種の珍しい鳥に出会えたことなどもあり、荒天でもないので実施することにした。

三崎口駅からバスで小網代の森入口まで移動。傘をさして歩き始めると、ひげ爺の館の前の道で早速シロハラ、幸先がいい。水道広場で身支度を整え“早朝谷歩きコース”組の出発。幸先がいいと思ったが、木道の周りの草木はしっかり刈りこまれていて、下見の時と大きく違う。地上にも、周りの木々にも、頭上の枝にも鳥の気配がありません。真ん中広場に出てやっとアオジと対面できた。



やなぎテラスに近づいたところ、刈りはらわれたアシ原でアオジが、山際の地上でガビチョウが盛んに何かをついばんでいるのを双眼鏡でやっと確認できた。

雨は小雨、弱まってきているがまだ傘は必要。やなぎテラスで立ったまましばし休憩する。

えのきテラスへの木道ではアオジ以外鳥の姿はなく、アカガエルの卵塊を捜したが見つからなかった。今年は、アカガエルの産卵は例年より遅れているとのこと、水辺公園でもまだ産んでいない。

えのきテラスの前でモズ♂とジョウビタキ♂、前の川にコサギ、杭の上にハシブトガラス、灌木にアオジ。えのきテラスから別荘の方に少し歩いて山の斜面、浜辺と湾を探すがカワウ以外の野鳥の姿は見られなかった。

テラスに戻り眺望テラスへ移動の途中で、木道の横の地面にホシゴイ（ゴイサギの幼鳥）の死骸があった。下見（1月22日）で見たホシゴイでしょう。片足と内臓は無く、頭と両羽はしっかり残っており、猛禽類ではなく餓死した様で、自然の厳しさを目の当たりにした。



“のんびり漁港コース”組は、すでに港に着いているとのこと、港に向け移動。眺望テラス前の柵にジョウビタキ♀、峠を越えて白髭神社の前に出て、海岸にイソヒヨドリを確認し、“のんびり漁港コース”組と合流。ペルルカフェは閉まっていたが、まだ小雨が降っていたので電話したところ開けていただけた。おかげで暖かい飲み物と昼食をゆっくりとれました。

食後全員そろって出発。漁港では、対岸の樹にミサゴ、アオサギ。海上にオオバン、スロープにハクセキレイ、藤崎の森にカワウ、藤崎前の海上にホシハジロ 2羽。マガモかカルガモか不明が 1羽。以前は、5~10羽ほどのマガモの群れがいたのですが、温暖化のせいか南下する数も減り、小網代でも年々見られなくなっている。

宮前の峠で、岩の隙間で越冬中のアカテガニを観察。水道広場への道では、雨も止み、何度も上空を舞うミサゴやノスリが見られ、地上や茂みで動き回るアオジを、ジャ・ジャとウグイスの地鳴きなどを楽しむことができました。

最後の階段を上り、水道広場で鳥合わせをして終了。野鳥の見聞きは少なかったですが、ジャケツイバラの鋭い棘には近寄り難いすごさを感じ、ジャケツイバラの花を、またフデリンドウやハンゲショウも見に来ようと思いました。

記：別府史朗 写真：辻晴一、浪本晴美

出会えた鳥たち

姿を見られた鳥

- ホシハジロ
- マガモ or カルガモ
- カワウ
- ゴイサギ (死骸)
- アオザギ
- コサギ
- オオバン
- ミサゴ
- トビ
- ノスリ
- モズ
- ハシブトガラス
- シジュウカラ
- ヒヨドリ
- シロハラ
- ツグミ
- ジョウビタキ
- イソヒヨドリ
- スズメ
- ハクセキレイ
- アオジ
- ※ガビチョウ



シロハラ



アオジ



モズ



ジョウビタキ



コサギ



ミサゴ



ホシハジロ



オオバン



ホシゴイ死骸

声のみ

- コゲラ
- ウグイス
- メジロ
- ※コジュケイ

※は参考記録

写真：本頁はすべて別府史朗



1月22日下見でのトピック

- ①真ん中広場の木道が終わったところで、先のカーブからヒョイトタヌキが、目を合わせるとカーブの向こうに消えた。「タヌキがいたー」と喜びながら進むと、こんどはそれも2匹出てきて、バツが悪そうに急いで後ろに下がり消えた。
- ②眺望テラスでは、水路にホシゴイ（ゴイサギの幼鳥）が現れ、皆を楽しませてくれた。
- ③トイレを過ぎて右の木にノスリが2羽。1羽が地上に降り何かを食べている。食べ物から離れたので近づいて確認したところ、ほとんど食べられて皮と骨になったタヌキの亡骸だった。



小雨降る中、今回も地図に野鳥観察のシール貼りにチャレンジしました。
こあじろの森の地図上の観察記録の作り方

- ① 桃色…鳥の姿を見た時シールに名前を書き地図上に貼る
- ② 青色…鳥の声を聞いた時シールに名前を書き地図上に貼る
- ③ 黄色…鳥以外を見た時シールに名前を書き地図上に貼る

森を歩きながらみんなで確認しながらの作業でした。

記：三本保子

●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

寒かったです。朝は雨も降ってて寒かったですけど、それなりに楽しめました。

S.B

雨の中、久しぶりに厳しい鳥の回だったけど、たくさん見れて良かったです。

A.M

もう今日寒いんだから、皆さんお疲れ様でした。今日は友人と一緒にきましたけど、とても楽しかったです。ありがとうございました。

S.T

凍えました。ゴイサギがちょっとかわいそうでしたけれども、色々鳥がいて、まあなんとか満足しました。

H.N

久しぶりに鳥見の交流会に参加しました。歩けるかどうか心配だったんですけど、皆さんに助けていただいていたなんとか歩けました。鳥は先週下見の時に見た。ホシゴイがなんかお亡くなりになっていてショックでした。ペルルカフェを開けていただいて、お弁当を温かい飲み物といただけて良かったです。

M.M

今日初めてここにきました。すごく勉強になりました。ありがとうございました。

Y.K

朝早くから雨が降ったりで大変でした。寒いですが、鳥が出てきて良かったです。

Y.M

今年の「鳥いっぱいの小網代の谷 2025」は2月2日、寒くて雨がパラパラ降っていたので9日に延期と思い込み家でのんびりしていました。2日に決行したのよと聞きガックリ。9日に行くつもりの人はいないのかなと言ったら、Mさんが付き合ってくれました。

9日早朝のバスに乗り水道広場へ。8時まで待とうと日が当たるベンチに座りジッとしていると、チッとアオジ、黄色いお腹を見せて飛んでいます。ウグイスがチャッチャッ、ヒヨドリはピーヨ、キジバトも数羽。ポポポはアカハラ？シロハラ？白い太めのお腹の鳥、シロハラだ。2羽だからつがいかな。草の中でガサガサガサ、モフモフの尻尾は小さいな、リスでした。

一人でゆっくりと谷へ下りてもアオジが時々飛ぶだけでだれも来ない。木の上の方で尾をクルクル回しているのはモズだ。寝言？チュルチュルピイピイ小声で鳴いている。遊歩道は霜で真っ白、極小さな手のような足跡、2つ並んで等間隔についているのはアライグマ？ 藪の上の方からコジュケイが大声でキョッキョ、さっきいたネコが近づいたかな。ウォー…アオー…なんだろう、動物？カラス？ 高い空にタカ、細めで割と大きいけど木に隠れてはっきり見えない。ゆっくり回りながら飛んで行きました。

あらシジュウカラの声、稍近くにエナガ！！数羽が枝を突きながらちょこちょこ動いている。可愛い♡ 混群かも知れないけどシジュウカラはいないな。

のろのろ歩いているので疲れていないけどやなぎテラスで一休み。遠くでガビチョウの声、でもまだうるさくない。コチコチ木を突く音、ジュージューはコゲラ！ジャヤナギの太い枝につがいで木を突きながら動いている。シマシマの体もしっかり見えた。えのきテラスに向かうけど、アシが刈られていて鳥達は隠れる所がない。川の近くでもホオジロが見つからないし、のんびりウグイスもいない。シジュウカラがアシを突いて虫を食べるのを見たいのに…

Mさんと合流し海辺へ。峠近くのヤブツバキはまだつぼみでメジロもいない。アオサギのつがいが飛んでいるのを見たけど、今年はカモが見つからない。ペルルカフェで昼食を取りながらトンビに気をつけていると、タカ！白っぽくて小さい。トンビ2羽が近くを飛んで威嚇している。タカは負けているな。海辺の栈橋にはオオバン、近くに行ってもこっちをしっかりと見ているけど逃げない。

谷に戻りえのきテラスを過ぎるとあれは？木の枝に薄茶色、目が大きい、尾の内側がオレンジっぽい、しかも尾を上下に振っている。ヒタキの仲間？ニシオジロビタキ！！だったらうれしいな。帰ったら調べよう(図鑑ではわかりませんでした。ジョウビタキのメスかも)アオジ、ウグイス、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロの声を聞きながら水道広場へ。Mさんと二人だと鳥を見つけやすいな。次の「鳥いっぱいの谷と森」にはなるべく参加しよう。

A.K

第 45 回交流会「森の落とし物を探して」

2024 年 12 月 7 日（土）

参加者 8 名

■小網代の森 小網代バス停～白髭神社～谷を上る

三崎口駅集合、バスに乗り小網代バス停下車、地衣類探しをしながら坂を下る。

白髭神社にお参りして今年の 11 月・12 月のカレンダーのイチョウと狛犬はここ！そして小網代湾から眺める富士山は素敵です。

宮ノ前峠入口手前で、ライトを照らしてカニさんの居そうな穴をのぞき見、いたいたアカテガニ！森に入り展望デッキからの景色「ススキの原が素敵！」と思っていたらススキでは無くオギなのです、バス停を降りた所でススキとオギの違いを教えてくださいました。ススキは乾いた土地、株で育ち小穂にノギと呼ばれる長い針状の毛があるそうで、オギは湿地、根茎で育ち小穂にノギが無いそうです、小網代の森の湿原にあるのはオギ、改めて皆で確認。

森の中を歩き、立ち止まって植物の名前を教えてくださいたり、鳥の声を聞いて立ち止まり名前を教えてくださいながら、久々の森でお喋りも楽しみました。

三本保子 記



■ベシヤで昼食後、午後のコースは水間様の谷へ

ここ数年、交流会では小網代漁港から森を上がって引橋へ、午後は東京湾をめざして松輪入口から三浦霊園を通って金田（三浦霊園入口バス停）へ出るコース、引橋の少し先の自動車修理工場を左折して、三浦海岸霊園の前を通って、蛭田（役場下バス停）へ出るコース。大きく言えば三浦半島横断コースを 2 本踏破してきた。

今回は未だ通っていない引橋から水間様へいく谷を下って大きく広がる畑の道を通り、旧道を通って、菊名（菊名バス停）へ行くコース。

水間様は筆者が三浦市に奉職した当時、三浦の自然を学ぶ会に入っている方がいて、ホタルの時期には小松が池、そこから流れに沿った小川、用水路で発生するホタルを案内してもらい、水間様も三浦市民にホタルの名所として案内していただいた覚えがある。

小網代の森を守る会時代、自然観察&クリーンの行事の時、冬の寒さには「闇汁」をと、工夫して干潟で作った。参加者に刻んで煮え易くして貰った鍋材料を三崎口駅で集め、干潟へ持ってくる係と、干潟で携帯用のプロパンガスを用意、大鍋を自治会館から借りてきて鍋をつくる係を作った。そして、筆者は水間様へ 20 リットルの容器を持って谷を下り、水間様の岩の横からとくとくと流れ出る水をひしゃくに汲んで 20 リットルの水を干潟に運んで闇汁を作るのだった。お水のせいかな、みんなの持ってきて下さった材料がよかったのか、闇汁は大変美味しく何杯もお替わりする参加者がいました。美味しいものを手に笑い顔で埋まる岸辺でした。



水間様はそんな筆者に特別な思い出のある場所です。久しぶりに行ってみると土地の人が相変わらず大切にしていることが分り、水が汲みやすい工夫がありました。直接飲むことは水質上できませんがとうとうと流れ出る水は綺麗で、小さなハゼの仲間が泳いでました。水間様までの谷は畑だったのが住宅に代り、時間が経った事が分りました。道路の左側にはぼつぼつと家が高い壁の上に立っています。進行方向左側には一面の大根、キャベツの畑が広がります。畑の中に少しだけ車の姿がありましたが、収穫作業の方は少ないようでした。収穫物の集積場と思われる所には水を使った様子が分り、大根の収穫、水洗い、荷造りの作業が押し量られました。行き交う車も少なく、軽いお喋りの間にも菊名集落に着き、もう目の前は東京湾です。菊名バス停でお別れの人もありました。おだやかな畑の脇を通る道だった。定番にしたいなという声も聞こえました。



引橋から東京湾への第4の道。ベイシアから南下浦へ下る道にある大きなサクラの木の近くから下り、隠れショウブ園へ、そこから菊名の里へ下るコースもトライしたい。

宮本美織 記

■水間様の谷を抜けてからおまけの遺跡めぐり

さあ、ゴールも目の前ですが、ちょっと寄り道しましょう。まずは昨年10月の南下浦遺跡めぐりでも訪問した白山神社。12月7日は新嘗祭とのことで祭事中でしたら遠慮する予定でしたが、すでに終了してしまいましたので、社殿奥の切妻造妻入形横穴古墳を見学させていただきました。



もう1か所、Googleマップを見ていて気になっていた遺跡、「仲里横穴群」にも寄ってみました。住宅地を奥に進むとこんもりと緑の丘があり、その前に看板が立っています。治山工事によりコンクリートに覆われ、現在はほとんど穴の痕跡がいくつかわかる程度、しかも私有地で穴のそばまでは近寄れません。しかし、海を臨む高台に横穴が作られていたことは

実感できました。それにしても、ここでも赤星直忠先生が登場！

ここで解散。バスに乗る人、縁の会に向かう人、駅まで歩く人、それぞれ歩き通した満足感を抱きながら帰路につきました。

浪本晴美 記

仲里横穴群（なかざとおうけつぐん）看板のテキスト

仲里横穴群は、神奈川県横須賀三浦地区農政事務所による平成11～13年度治山工事に伴い、現地確認が行われ、合計16基の横穴が発見されました。

横穴とは、丘陵の斜面や崖面に掘られた古墳時代の墓穴です。仲里横穴群は、赤星直忠氏の記録によれば、大正14（1925）年に5基が発見され、うち1基に後世の五輪塔の浮彫があることが記されています。この浮彫は現存しています。翌年、同氏によりさらに2基が発見・調査され、内部より火葬骨と共に土師器坏2点・鉄鏃1点が出土しました。

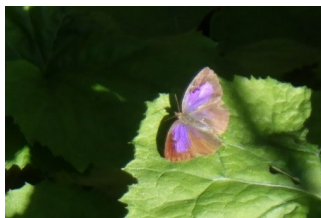
今回の工事では、新たに9基が発見されましたが、法枠工と呼ばれる工法により、横穴の開口部が改変されることがないため、全て現況のまま保存することが可能となりました。仲里横穴群は、この地域の歴史を考えるうえでの貴重な資料の一つです。

2001年12月 神奈川県横須賀三浦地区農政事務所
神奈川県教育委員会 三浦市教育委員会





フジの実



ムラサキツバメ



カラスウリの実



センニンソウの種子



Google マップにスマホアプリ「位置ロガー」(木直規作) で記録した GPS データをマッピング。赤の線が当日移動したルートです。

●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

坂道や神社と寄り道しながら久々の小網代の森へ行く。冬枯れの景色の中、一緒に歩くみんなの声や鳥のさえずりを聞きながら、あ〜森に来た！と実感しました。次回も楽しみにしています。
Y.M

水間神社の清水が感動するほど清らかで、3~6 cm程の小魚も生息していました。
M.S

久しぶりに水間さまの谷を歩き、段々畑が段々住宅に変わっていて驚きました。以前この谷を歩いた時、センブリの花を見たのが心に残っています。
M.M

今日の無事を3つの神社(白髭神社、水間様、白山神社)にお参りしながら、ホカホカとした陽ざしのなかを歩く。定番コースにしたいな。
H.N

今日は晴天に恵まれ、暖かい日差しのもと、白山神社、白髭神社、水間様などをご案内していただき、楽しい一日でした。次回もまたよろしく願いいたします。
A.N

夏が暑すぎてすっかり出不精になり、久しぶりの小網代です。バスを下りて「ノギの有るのがススキ、無いのはオギ」と教わり、道端のススキの穂に触ると、あ、ある！先端に小さいとげのようなノギ。小網代のえのきテラス近くでオギを見つけ、ふさふさの穂に触ると柔らかい♪ノギはないです。いっぱい集めて枕にしたい！湿地のオギはほとんど刈られて、白い穂が風に吹かれる風景は見られませんでした。絶滅危惧種のタコノアシまで刈られていました。良いのかな〜ほとんど人も通らず、川岸にウグイスがのんびり出てきて、皆で見物、アオジのチツが聞こえます。今年は木の実が少ないな、クサギの紺色の実はどこだろう。

ベトナムで昼食後、水間様へ向かい谷を下りました。ムラサキシキブの実を見つけコムラサキというのがあったと教えてもらいましたがどっちかな？畑のダイコンは普通にできているけどキャベツは小さいね、だから高いのかなと観察。水間様の湧き水で一休みすると小さいハゼのような魚がいました。白山神社では今日の新嘗祭も終わり静かでした。最後にマンションの裏手の崖に昔のお墓の穴がいくつも、文化財情報の地図には載っていない横穴墓のようです。説明を見て各々解散となりました。初冬は人も少なくゆっくり散策できました。
A.K



交流会後、伊豆島で恒例、縁の会に参加しました。日頃多忙でなかなか顔を合わせることでできない方も参加し、ワイワイがやがやと自由に盛り上がり。今回は伸さんの手話での合唱、別府さんの水辺公園の木片の差し入れが印象に残りました。美味しい三浦の幸をいただきながらの交流、ぜひ次回は皆さまと！
H.N

小網代を詩う

寂しい春

中井由実

春だよ 春が来たよ と
暖かい日差しが小網代の谷を照らす
風も穏やか
誰もがスキップしたくなるようなお天気だ

なのに、なぜだろう

いつもの春なら 落ち葉の下から
冬眠から覚めきれない姿の見えない生きものたちが
つぶやいているのが聞こえるのに

あと少し、あと5分だけ、のように

この日はどこまで歩いて

森はしん、としていた

刈り倒されて平たくなってしまうた広場の向こう

アオジの群れさえ声を潜めて隣の枝に飛び移るだけ

どうしたの、みんな？

一緒に春を唄おうと思っていたのに

私ひとり

ただ明るい枯野に取り残されていた

コサギ舞う

中井由実

枯野原の上
のびのびと広がる真っ白な翼に
ゆるやかな曲線を描く細い首
一羽のコサギが飛んできた
目印の黄色い靴下を履いて

どこ？

どこに下りればいいの？

迷い子のように

低く高く舞い続けていた

挿絵「みずぬるむ」 伸



カエルの唄が聴きたい

中井由実

去年は 私は来るのが遅かったから
もう春は全開でにぎやかになっていた

今年は早めに来て

春の始まりが見たかった

だから

浅い水のくぼみにカエルの卵があるはずと
流れのゆるやかな溜りをのぞき込んで
ふわふわと揺れる塊を探して歩いた

それなのに

無い

無い

カエルの卵

やがて分化して尾を生やし りろりと泳いで
谷中で高らかに鳴くカエルになる

その声が聴ける予感こそ春の喜びだと
こんなふうになることになると

遠足「池子遺跡群資料館」～「まんだら堂やぐら群」

2024年11月17日（日）

参加者10名

こあじろの森くらぶの遠足の報告に際して筆者の担当は、池子の森自然公園に建っている「池子遺跡群資料館」について簡単にお知らせすることだ。ここには付近で発掘された水田で使用されたと思われる木製の道具、縄文、弥生、古墳時代から近代の遺物が展示解説されている。この日も大きな壺を復元したと思われるものを係の方が抱いて移動させていた。出土した遺物を調査している部屋もある。

集合場所の京急逗子線神武寺駅から線路沿いの道をJR逗子駅方面に、10分程で池子米軍住宅入り口になる。線路を渡って左側の低地に野球場などがあり、駐車スペースが西に向かってあり、車が隙も無く駐車している。

今回の遠足の目的は公園の附属施設「池子遺跡群資料館」の見学だ。

当くらぶは三浦市の海蝕洞穴などを訪ねる遠足を実施してきたが、ここでは出土品などを実際に見学したい。シロウリガイの化石もこの地から見つかっている。



筆者は逗子市の市長選挙を争った池子米軍住宅問題の中にいたことがある。この公園は日本と米軍の共同利用という、考え抜かれたあり方なのだと思う。公園の突き当たりには米軍家族の住宅があり、子供達の遊ぶ声が聞こえる。

この公園が成立したとき、筆者は公園ボランティアとして少しだけ活動したことがある。公園内には池もあり、カワセミもくる。公園の中を通る川にはゲンジボタルが育つ。植物調査の方々も姿を見せる。日曜日に朝から鳥の調査をしている若者の研究発表を聞く機会もあった。

緑地エリアは水・土・日・祝だけの公開だが、資料館は月曜のみ休館。昔の遺物などと共に自然たっぷり楽しめる公園だとお勧めしたい。

宮本美織 記



戦前に日本軍に接収され、戦後も引き続き米軍に接収され、ベトナム戦争が終結するまで弾薬庫として使われていた池子の森。1980年代米軍住宅建設の動きが出て、逗子市は返還運動に激しくゆれていたのを思い出す。そのころの人々の熱い思いが、長い間手つかずの自然や、貴重な考古資料を保存する資料館や、シロウリガイの岩塊を残す力となったのだろうと想像する。

資料館を出て自然公園に向かう途中のシロウリガイ化石は、水深1000mに生息するシロウリガイが、海底地すべりによる堆積物に混ざって出てきたそうだが、二枚の貝殻がバラバラにならず、セットになって残った貴重なものだそうだ。

目指すまんだら堂やぐら群までは電車とバス移動を予定していたが、参加のSさんに先導されて、歩いて行くことになった。住宅街を抜けて、JR横須賀線近くの日蓮宗「法性寺」の参道を上っていくと、白っぽい逗子層の露頭にでた。露頭といっても、鎌倉時代の人々が開いた切通しである。



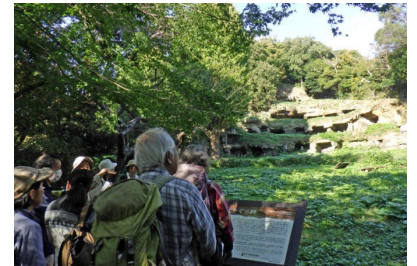
まんだら堂やぐら群は、平場を囲む崖に多くのやぐらが掘られた、ちょっとぞっとする雰囲気のある墓地である。処刑場でもあったようで、穴があいて吊るされていたような女性の頭骨が平場で見つかったそうだ。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」や、永井路子の小説に出てくるように、鎌倉時代の武士階級は何度も血みどろの戦いをして、女性といえども悲惨な最期を免れなかったようだ。

松原あかね 記



毎年初夏と秋の限られた時期にのみ一般公開されるまんだら堂やぐら群。今回はちょうど公開時期に遠足の日程を合わせることができた。待機しているスタッフの方に説明をお願いしたら快く引き受けてくださった。逗子市作成のパンフレットとその方のお話から概要を抜粋する。

- ・古墳時代に作られた横穴墓と違い、やぐらは鎌倉時代に造られた、鎌倉とその周辺に見られる特殊な遺構である。まんだら堂やぐら群は、150 穴以上が集中して造られており、やぐら群として最大級の規模を誇る。明確な文献資料がなく、「まんだら堂」とは何なのか、いつどのように造られたのか等は不詳であるが、太閤検地の時の文書に記されていた。
- ・整備に先駆けて実施した発掘調査の結果、やぐら内部に石塔を据えて納骨・供養する施設として 13 世紀後半頃から造られ始め、おおむね 15 世紀いっぱい（部分的には 16 世紀まで）供養が行われていたと考えられる。大きな建物跡が発掘されている。また、火葬した跡と思われる穴が 2 基発見された（現在は保存のため土が被せられている）。石敷遺構には頭蓋骨もあり、分析すると 40～50 代の女性で、斬首され見せしめにされたものではないかと考えられる。
- ・火葬をするということは大量の薪が必要で、まんだら堂は言わば超高級墓地。有力な御家人や有名な僧侶など身分のある上流階級の人のための弔いの場だったと推定される。庶民は由比ガ浜や材木座の共同の捨て場にそのままポイと捨てられた。
- ・一部の穴から火葬した骨が壺に入っている。キリスト教・イスラム教では火葬は行われず、火あぶりというのは残虐な行為であるが、日本はいつから火葬が始まったかという、700 年頃、仏教思想が入ってきてから。鎌倉時代でも 1 割程度。
- ・やぐらの中に、入口に扉を造って、羨道（せんどう）の奥にお骨をお祀りする場所があった。今は崩れてしまっている。第二次世界大戦が終わった時には、ここに人が住んでいた、中は滅茶苦茶になっている。当初は整然とした納骨・供養施設だったと思われる。
- ・やぐらは鎌倉武士とともにある文化。鎌倉の衰退とともにやぐらも衰退していった。この文化は鎌倉だけでなく、神奈川県内、対岸の千葉県、房総半島の南部に見られる。そのほか宮城県、石川県、富山県、大分県の一部で見られる。



お話をうかがっていて、私なんかは由比ガ浜にポイだったんだなあ、とつくづく思った。戦中戦後は人が住んでいた（おそらく戦災で家を失った人？）ということにもビックリ！この他に古東海道（鎌倉

から走水を通り、船で房総に渡っていた)のお話や、今日歩いてきた法性寺(日蓮上人)のお話など大変興味深かった。どなたか存じ上げないが、感謝!

浪本晴美 記

池子の森自然公園の久木方面出口から久木小学校を目指して歩き、次に国道 205 号線沿いに進み久木 5 丁目庚申塔、さらにハイキングコースにある法性寺へ坂を上りお墓の奥へ、高台から景色を眺めての一休み、更に奥へ細道を登ると名越切通に繋がり、まんだら堂やぐら群はすぐそこです。帰りは第 1 切通を抜けて亀が岡団地方面へ。ここで車で帰る人と逗子駅まで頑張って歩いて帰る人に分かれて帰路に就きました。

三本保子 記

池子の森からまんだら堂へ歩いたルート

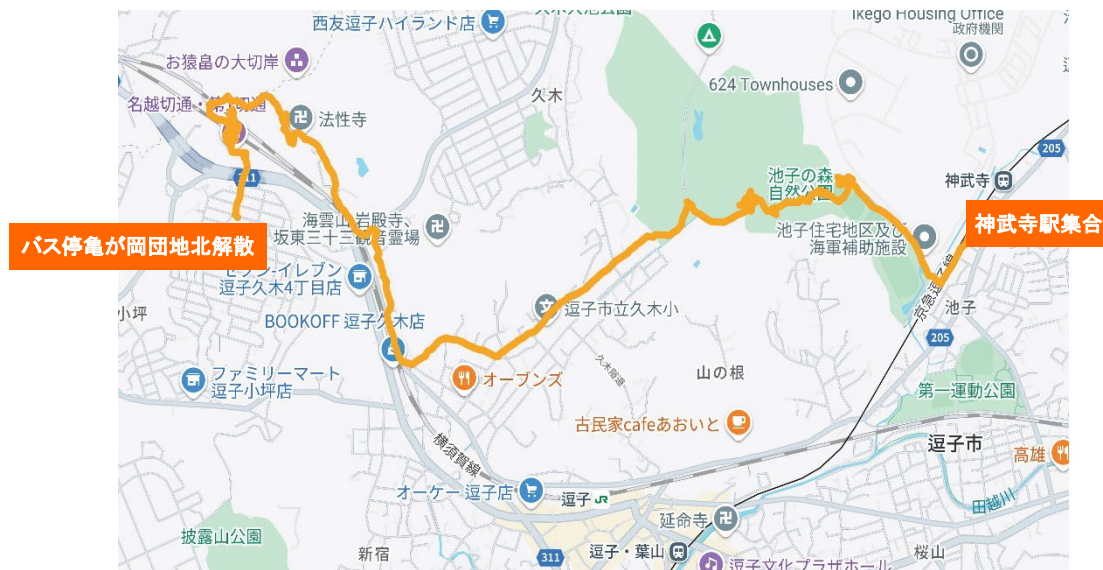


写真 浪本晴美・松原あかね

●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

今日のまんだら堂ヤグラ群は行くまでに切通や秋の山道を歩きに楽しかったです。やぐら群の説明により、戦時中は住居として使われていたことをお聞きし、びっくりしました。楽しい一日でした。
M.T

結果的に健脚向きではありましたが、とても良いコースでした。欲を言えば池子の森公園でもう少しゆっくりできればよかったですね。もう一度歩きたいです。
H.N

スタッフとして徒歩で参加することはできませんでしたが、運よくまんだら堂で合流することができました。そこへ着くまで 4 本くらいの坂道を登っては下り、迷いました。下見のときはスムーズだったのに…
M.M

大昔通ったことのある道だったため、急遽先導役を担うことに。何とか無事に大役を果たしホッとしています。
M.S

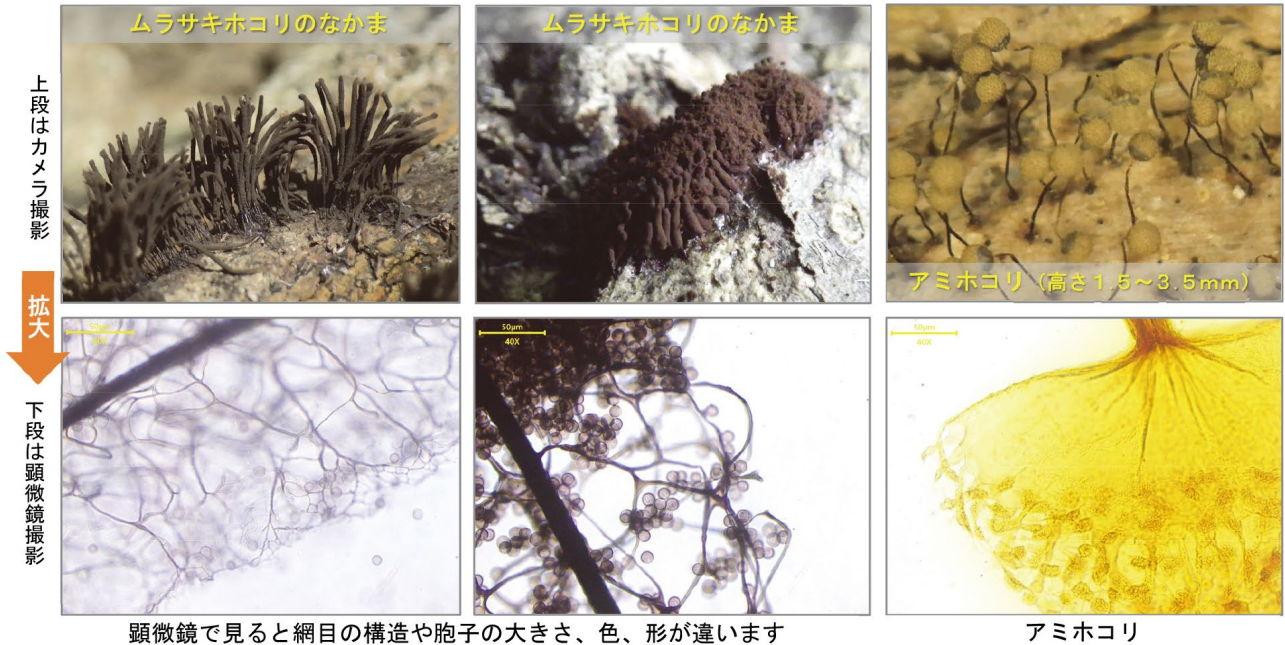
予定していた電車、バスでの移動が徒歩移動になりましたが、快い疲れと共に一日が過ごせて楽しかったです。山の中のやぐら群を見ながら戦いの日々であったであろう鎌倉時代に思いを馳せる事ができました。とても有意義な一日でした。ありがとうございました。
M.O

池子資料館の展示品の多さにビックリ！自然公園ものんびり出来ていいですね！思いもよらない切通しからまんだら堂へのハイキング、途中法性寺奥からの展望を楽しみ、まんだら堂群ではボランティアさんの話から戦後ここが住居として利用されていた事を聞きビックリ！色々な事を知ることができました楽しい一日でした。
Y.M

ずっと行きたかった、まんだら堂やぐら群。葬送の場独特の雰囲気がありました。池子からずっと歩くことになったけど、山道ありお寺ありのいいコースでした。ありがとうございました。
A.M

スタッフ研修報告「変形菌探し 2024@光の丘水辺公園」 2024 年後半 (7~10 月)

7月8日：参加者4名。変形菌の夏がやってきました。前回事務所裏のベンチ横に発生した紅白のウツボホコリ大群生は健在。あちこちに、ムラサキホコリのなかまの大群生も目につきます。パッと見て大きさや生え方から違う種だとは思ったのですが、標本を持ち帰り自宅で顕微鏡観察すると、ムラサキホコリのなかまだけでなくとも5種類ありました。そのほか、ホシモジホコリ、ホソエノヌカホコリ、モザイクマメホコリ、エダナシツノホコリなどいつもの面々に、とても小さいアミホコリなど。全部で推定15種。



顕微鏡で見ると網目の構造や胞子の大きさ、色、形が違います

アミホコリ

それにしても今年の夏は異常な暑さ！たくさん見つけてテンションは上がったものの、採集後はエアコンの効いた事務所に避難して昼食、標本作り。8月は大事をとって活動をお休みにすることにしました。

2023年4月から自宅で飼育していた黄色い変形体も元気がなくなり、だんだんとカビが生えるようになってしまい、そのうち個体自体が小さくなり、溶けるように消滅しました。暑さのためか、オートミールでは栄養が足りなかったのか、元々寿命があるのか……。でも、1年と4か月はなかなかの飼育記録だと思います。

9月8日：参加者5名。この日一番目についたのはホソエノヌカホコリ。赤くて丸い未熟なものから黄色く爆発したものまで。ウツボホコリとは明らかに違うウスベニウツボホコリと思われる種や、黄色いきウツボホコリも（地面に転がっていて別府さんに教えていただいても最初はゴミかと思いました）。キノコと見紛うような大きな子実体はエツクダホコリとされます。その他、ドロホコリ、クモノスホコリなど、全部で推定10種。



ホソエノヌカホコリ

キウツボホコリ

エツクダホコリ

10月20日：参加者3名。そろそろ変形菌シーズンも終わり。当日朝に雨がパラついたものの、それまで乾燥した天候が続いたので、わずか4種のみ。群生は見られませんでした。

* * *



2025年も月に1回くらい変形菌探しを実施いたします。参加をご希望の方は、会までご連絡ください。詳細ご案内いたします。スタッフ以外の方のご参加も大歓迎です。毎回10時光の丘水辺公園事務所前集合、昼食、ルーペ、散策路を外れた湿った場所も歩きますので長靴もご持参ください。虫よけも必須です。 浪本晴美

■ スタッフ研修 第 11 回 三浦の海岸歩き「三戸から黒崎」

2025 年 1 月 18 日 (土)

参加 7 人 晴

前回は油壺から、小網代の森を上って帰った。今回は小網代湾北岸から歩き始めたいところだが、自由に立ち入れないところが多いので断念した。その代わりに、最近ほとんど行かない北尾根を通ることにし、三崎口駅から富士見新道を通して入っていった。西海岸線道路の小網代湾を跨ぐ橋の計画がいよいよ実現に向けて動き出し、藤ヶ崎や北尾根の測量が始まったとの噂を聞き、どんな状況か知りたいという思いがあったのだ。やはり、ピンクのテープが結ばれ (写真 - ①)、ササが刈り込まれているところを何か所も確認した。

「これからずっと、蟹田 (がんだ) の洞窟がみられないのかな。」「前に見たビオトープはどうなっているのだろう。一般公開しないのかな?」などと話しながら、造成農地を三戸の光照寺へと向かう。

トイレをお借りしたいとお願いしていたのだが、久しぶりにお会いするご住職の温なお顔に心から癒される。残念ながら門前のスダジイの巨樹は一本が枯れてしまい、残った一本も樹勢が衰え樹木医に診てもらっているところだという (写真 - ②)。老樹、がんばれ!!

エビカ浜に降りてランチ。三戸浜でと予定していたのだが、みんなもうお腹がぺこぺこだったのだ! 新田次郎がこの辺りをモデルに 50 年ほど前に書いた小説、『つぶやき岩の秘密』のモデルとなった地点のひとつ、「鶉の島」が見える。「つぶやき岩」のモデルはどこだと思う? という話題で盛り上がる。小網代湾入り口の曾野綾子別荘下の岩説が二人、この先を回り込んだ三戸浜南側狙撃陣地跡説が一人。こうしていろいろとモデル地を詮索するのも面白い。



下見の時、潮が上げていて難渋したので、この先の岩礁海岸は迂回して安全に行こうと予定していたのだが、若くて (?) 元気な二人がお弁当もそこそこに、先に見てくるからと出発。「潮が引いてるから行ける」と合図をしてくれる。いつも慎重な K さんも行ってみるということで、歩きにくい岩場を全員、自分のペースでゆっくり進む。

回り込んだところに、石が岩の窪みに入って波でぐるぐると回りながら穴をあけるポットホール (写真 - ③) がたくさん! 鶉の島にはいつもウがたくさん休んでいる (写真 - ④)。このあたりの地質は初声層で、特徴的な薄い層が積み重なった斜交葉理や斜交層理 (写真 - ⑤) もそこここに見られる。岩のひび割れ (クラック) や崩れも多く、もの凄い力が働いた痕跡なのだろう、歩きにくいのも当然だ!



やっとの思いで岩礁地帯を通り抜けると、砂浜が現れる。崖を見ると南下浦の遺跡巡りで見たのと同じ造りの、窓のように開いている三戸浜南側狙撃陣地跡 (写真 - ⑥) が。そのすぐ左脇に、縦に大きくひびが入ったような、岩壁が横向きに圧縮されたような跡がある。ここまでの激しさは、どうも断層による破砕帯らしい。

三浦半島の地質図には雨崎から始まる実線で表された引橋断層があり、引橋あたりで実線が消えているものと、そこから点線になっているものがある。まだしっかりと確認されていないということのようだ。さらに後ろを振り返ると、三戸浜の突堤の手前に、海に向かってまっすぐに突っ込んでいる岩列（写真 - ⑦）！これはもう間違いない。高抜の暮景（ボッケ）崎で見られる南下浦断層東端の、海に向かうまっすぐな岩列とそっくりだ。遠からず、ここが引橋断層の西端と確定されるだろう。

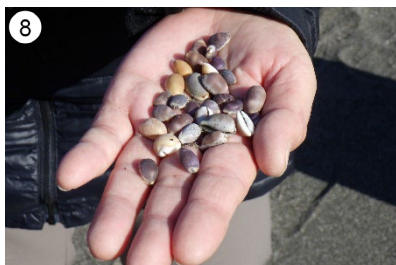
砂浜を北上する。この辺りは貝殻がたくさん打ち寄せられている。試しにタカラガイ（写真 - ⑧）を5分間でいくつ拾えるか、競争してみた。Oさんが40個以上拾って優勝。他のメンバーも20個以上は拾っていた。かなり多いといえるだろう。

サンコロ石や天神丸石を見て、諏訪神社へ向かう。ここでKさんから諏訪神社横穴遺跡を教えてもらう。本当に小さな穴で、これまでいくら探しても見つけれなかったわけだ！

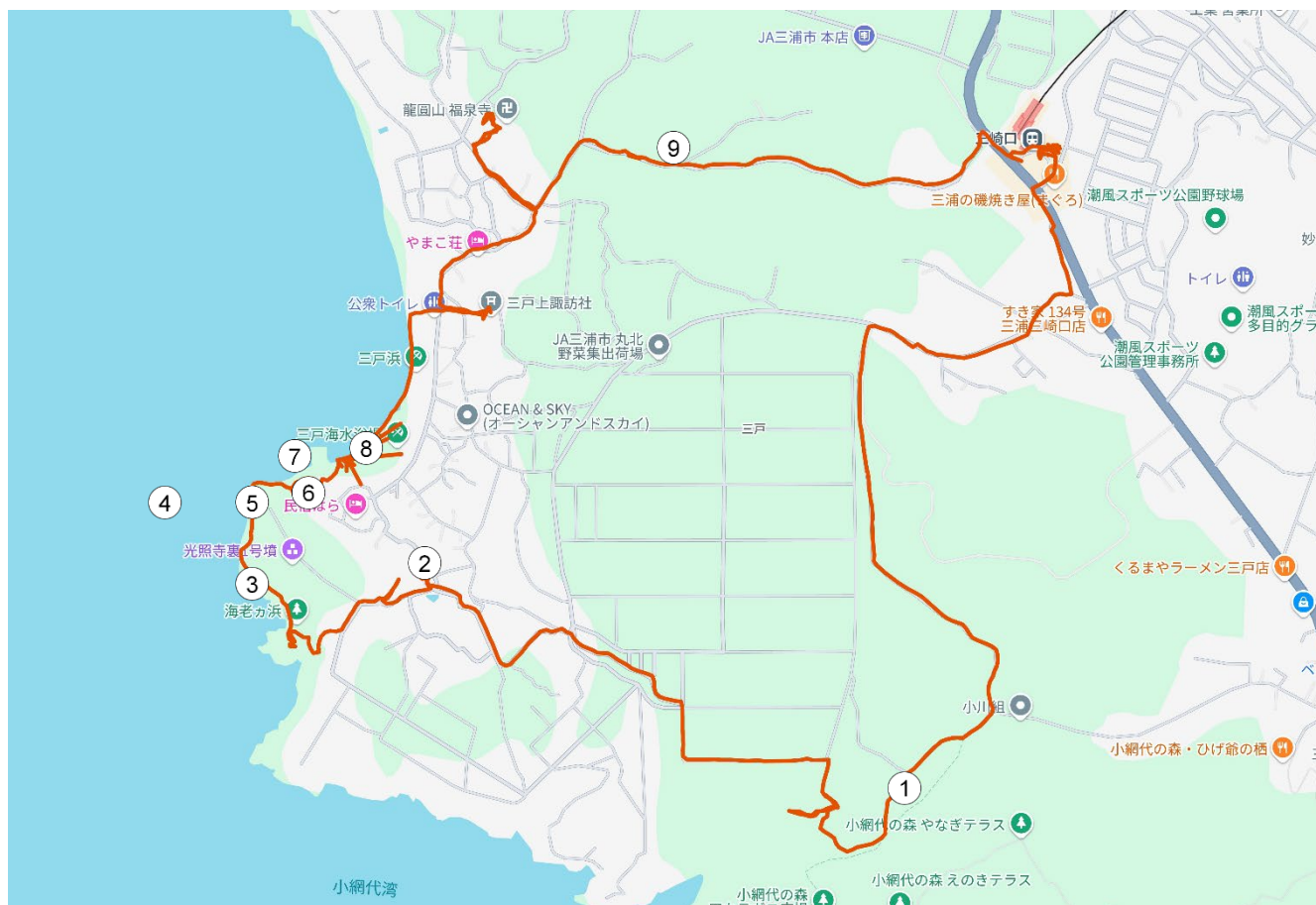
きょうはよく歩いて時間もそこそこに。黒崎に行くのはあきらめ、福泉寺で小休止して帰ることにした。「三戸から黒崎」ではなく、「小網代から三戸」となってしまった。

三崎口駅に向かう近道を教わり、畑の道を気持ちよく進む。葦原や、最近とんと目にしなくなったキラスウリが鈴なりの柵（写真 - ⑨）に出会えて、嬉しかった。

みんな上機嫌で、最近できた駅のお土産屋さんで美味しいものを買って帰った。



記：松原あかね 写真：浪本晴美



Google マップにスマホアプリ「位置ロガー」（木皿直規作）で記録したGPSデータをマッピング。赤の線が当日移動したルートです。GPS信号が届かない場所があり、一部ルート記録が乱れています。



ココテラス湘南ビル。そのビルの7階に藤沢市浮世絵館がある。拝観料は無料で誰でも自由に見学ができる。

東海道線辻堂駅下車、北へバス通りを500メートル位行くと、右側にココテラス湘南ビルがある。その中に江の島のコーナーがあり、江戸時代に一大名所となった江の島が紹介されている。

絵図や観光ガイドが数多く並んでいる。他にライブラリーがあり、藤沢市の郷土の歴史や浮世絵等江戸文化が紹介されている。展示された浮世絵を見ると、江の島へ渡るのに女性は全員下駄や草履を履いている。干潮の時に歩いて渡ったのである。当時高名な浮世絵師である喜多川歌麿も江の島を描いている。

江の島道の道標

高さ1メートル位の石塔で「えのしまみち」と刻んである。

江戸時代建立、石造りの江の島道の道標が藤沢市内に幾つか現存する。

元禄時代「17世紀後半」 盲人の杉山検校が創建。按摩、マッサージ師で高貴な人たちへ直接に肌を触れてマッサージを行うので、検校という高い位を与えたものである。

有名なものでは、藤沢市白旗神社境内と藤沢駅北口から遊行寺通りを行った先にある。

石塔の各面には、一切衆生、二世安楽、えのしまみち、と刻まれている。江の島は昔から数多くの、浮世絵に描かれている。富嶽三十六景相州江の島、相州江之嶋弁財天開帳参詣群集之図等、当時の有名版画家達によって描かれている。

風光明媚な広い相模湾上にポツリと浮かぶ江の島。遠く富士山と対をなして絶好の景勝地である。

江の島が確実な歴史資料に現れるのは、鎌倉幕府が編纂した公式記録の「吾妻鏡」である。寿永元年(1182)4月4日、源頼朝が文覚上人を鎌倉へ招き、江の島において平泉の藤原秀衡の調伏祈禱を行わせたという。

江の島神社は戦国時代から幾度か、御営造や御遷宮が行なわれてきている。そして、江戸時代になると弁財天信仰が盛んになって行く。島内には、辺津宮「へつのみや」、中津宮「なかつのみや」、奥津宮「おくつのみや」からなり、三女神を祀る。また、我が国の三大弁天としても有名である。

また、東側には長い歳月を経て波浪で出来た海食洞窟があり、古くからの信仰の対象になってきたのである。第一岩屋と、第二岩屋からなり、波の音を聞きながらローソクを手に拝観する。

20歳台の若い時に、友人達と江の島を泳いで一周したことがある。岩礁があればよじ登りまた泳いで行った。約4キロはあるだろう。今は、東側にヨットハーバーができて、泳いで一周は不可能である。

車道専用の江の島大橋、歩行者専用の江の島弁天橋。混雑する大勢の観光客に交じり、外国人の姿が多く目立ってきている。

江の島に着くと、狭い参詣路が続き、土産物店や見世物店が並び、名物の貝の塩焼きの匂いが漂ってくる。島内には、観光用のケーブルカーが4連も続いている。土地の人しか知られてないが、西側から江の島山頂近く、狭い車道がある。私は、この道が好きで帰りには必ず利用している。

江の島シーキャンドル「展望灯台」 海拔100メートルの展望灯台で周囲ぐるりと360度、素晴らしい展望が楽しめる。サムエル・コッキング氏に由来した和洋折衷の南国ムードあふれる植物園がある。

藤沢市浮世絵館 開館時間は10時から19時まで 休館日は月曜日

江の島シーキャンドル灯台 9時から20時まで 入場料500円

江の島エスカー 計4連あり 360円

江の島岩屋 岩屋は第一第二がある 9時から16時まで ローソク貸出 入場料500円

追悼 須藤伸三様

小網代の森を守る会時代からスタッフとして活動してくださり、「ウラガのカラス」という鳥ネームで、鳥情報を教えてくれたり、通信の印刷発行の手伝いをしてくれたり、また鳥の観察会では講師を引き受けてくださっていた須藤伸三さんが、最愛の奥様のもとへ旅立たれました。初めて須藤さんとお話したのは河口の石橋で奥様の帽子が川に飛ばされて、筆者が水の中に入って取り戻したとき。鳥のお仲間をかながわトラストみどり財団の会員に勧誘されることにも熱心でした。知人からいただいた南方産のフウチョウの剥製をお宅まで届けた事もありました。

2004年にガイドブック小網代Ⅱ「小網代の鳥」というCD-ROM付き写真集の発行を手がけてくださり、鳥探しの楽しみ方を教えて下さいました。

小網代の森が一般解放された後のある時、訪れた外国の方を流暢な英語で対応し、えのきテラスから先へ案内されていた後ろ姿はお元気そうでした。もっと、もっと、小網代の森で鳥見の指南をしていたかったです。どうぞ安らかに眠りください。 合掌

宮本美織

小網代の森 NEWS

●●● スタッフの活動

- 2024.11.24 (日) 通信 44号及び 2025 カレンダー発送準備
- 2024.11.28 (木) 通信 44号及び 2025 カレンダー発送
- 2024.11.29 (金) 第45回交流会下見
- 2024.12.07 (土) 第45回交流会 「森の落とし物を探して」
縁の会 (伊豆島三浦海岸店)
- 2025.01.07 (火) 第11回三浦の海岸歩き下見
- 2025.01.18 (土) スタッフ研修 第11回 三浦の海岸歩き「三戸から黒崎」
- 2025.01.22 (水) 第46回交流会下見
- 2025.01.25 (土) スタッフ会議 (リモート)
- 2025.02.02 (日) 第46回交流会 「鳥いっぱい的小網代の谷 2025」
- 2025.02.09 (日) 第46回交流会 予備日対応
スタッフ会議 (リモート)
- 2025.03.02 (日) スタッフ会議 (リモート)
- 2025.03.05 (水) スタッフ会議 (リモート)
- 2025.03.16 (日) スタッフ会議 (リモート)
- 2025.03.23 (日) 通信 45号印刷所入稿

今後のイベントのお知らせ

●●● スタッフ研修 第12回海岸歩き「福泉寺～ソレイユの丘」

日時：2025年4月12日(土) 雨天の場合13日(日)

集合：10:00 三崎口駅前

*参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。詳細をお知らせします。

staff@mori-club.com(メールの件名に「海岸歩き」とお書きください)

●●● 第47回交流会「緑活き活き春の森」

もうすぐ八十八夜のこの時期、小網代の森では一年で一番、生きものたちが華やいでいるように感じます。初夏の気配を感じつつ、小網代の森の春を散歩してみましょ。

三崎口駅発のバスを利用して、引橋から森へ向かいます。水道広場 10:40 のお待ち合わせも可能です。

日 時 : 2025年4月29日(火・祝) 荒天中止(午前6時にHPでお知らせ)

集 合 : 三崎口駅前 10:00 もしくは水道広場(引橋側入口) 10:40

持ち物 : 昼食、飲み物、あれば図鑑など

参加資格 : 会員とそのご家族、ご友人

*保険はありませんので、ご参加は自己責任でおねがいします。



●●● 【予告】第48回交流会「ホタルを見にいこう! 2025」

神奈川県からのホタル夜間開放期間についての発表は、まだありませんが、5月下旬から6月上旬にかけて交流会を開催する予定です。夜間開放の日程が発表され次第、交流会の日程を確定し、ハガキにてご連絡します。

*森の夜間開放が中止となった場合も、森の周辺でホタルを楽しみましょう。

*雨天中止です。

*こあじろの森くらぶ会員とそのご家族、ご友人に参加していただけます。

●●● 光の丘水辺公園友の会のイベント

光の丘水辺公園友の会 HP。日に日に、ますます楽しくなっています。見てね!

<https://mizubekouen.com/>

*ニリンソウ群落特別公開(公開): 3月29日(土)~4月4日(金) 10時~15時

聖なる池に群生するニリンソウを公開します。

最奥の池も含めて、普段立入ることの出来ない公園の自然を楽しむことができます。

この機会に、ぜひご来園下さい。

その他にも、

*自然観察会(公開): 毎月 第1土曜日 9:30~ や

*早朝探鳥会(公開): 毎月 第4土曜日 7:00~ などのイベントがあります。

どうぞ光の丘水辺公園友の会ホームページをご覧ください。



●●● 【お詫び】

こあじろの森くらぶの郵便振替口座の口座番号が誤っておりました。ご更新の皆さま、新規ご入会の皆さまにご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

郵便振替口座 誤: 00290-6-137303 → 正: 00290-6-137203

こあじろの森くらぶ通信 No.45 2025年3月30日 発行: こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: ホームページトップの「お問合せ」からメールをお送りください

電話 046-889-0067(仲澤)

ホームページ URL: <http://www.mori-club.com/index.html>

(右側のQRコードをスマホのQRコードリーダーで読み込んでください)

年会費: 1000円(7月~6月) 入会金不要

郵便振替: こあじろの森くらぶ 00290-6-137203 (新規ご入会の方はお振込み後上記連絡先へご一報ください)

